

# Economic Trends

発表日：2023年6月30日（金）

## 都区部版・日銀基調的インフレ率の試算（2023/6）

～3指標はそろって低下、緩和継続路線を後押しへ～

第一生命経済研究所 経済調査部

主任エコノミスト 星野 卓也（Tel：050-5474-7497）

（要旨）

○本日公表された6月都区部CPIを用いて、日銀が全国CPIをもとに公表している刈込平均値・加重中央値・最頻値を試算した。刈込平均値・加重中央値・最頻値の上昇率は今回いずれも低下、価格転嫁圧力の弱まりを示唆。全国版の値も低下を見込むが、それは日銀の緩和継続を後押しするだろう。

### ○基調的インフレ率はそろって低下

以前のレポート<sup>1</sup>で試算した東京都区部版の基調的インフレ率3指標について、本日公表の6月都区部CPIを用いて計算した。刈込平均値（全国ウェイト換算）は5月：+3.0%→6月：+2.8%、加重中央値（全国ウェイト換算）は5月：+1.1%→6月：+0.7%、最頻値は5月：+3.8%→6月：+3.4%となった（いずれも前年比）。3指標の伸び率はいずれも低下しており、価格転嫁圧力の弱まりを示唆している。

日銀の植田総裁は28日のECBフォーラムの討論会において、緩和継続の理由として「基調的な物価上昇率が2%より低い」点を改めて強調した。「基調的な物価」が何を指すのかは必ずしも明示されているわけではないが、これらの品目別価格上昇率の分布に着目した指標もそれを判断する大きな材料だと考えられる。来月公表される全国版の基調的インフレ率3指標も低下を見込むが、それは日銀の緩和継続を後押しするだろう。

### 資料1. 試算した都区部版・基調インフレ率と日銀の全国CPI基調インフレ率（前年比・%）

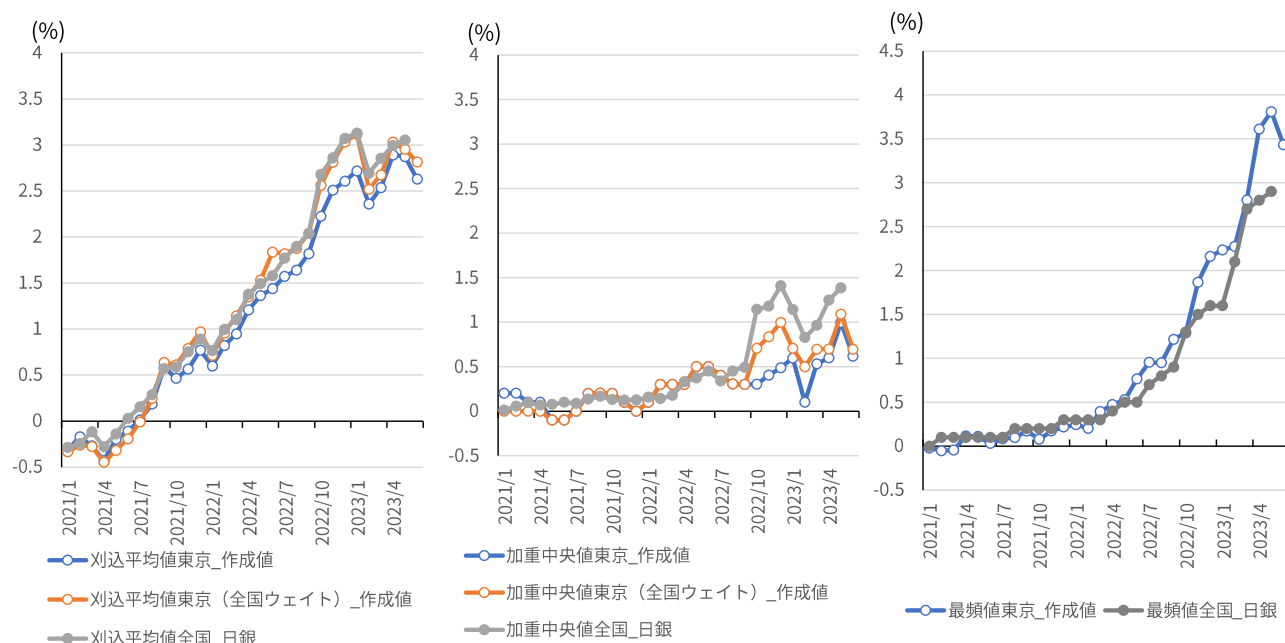
	刈込平均値		加重中央値		加重中央値		最頻値東京	最頻値全国
	東京	東京_全国 ウェイト	全国	東京	東京_全国 ウェイト	全国		
	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	筆者作成	日銀公表値	筆者作成	日銀公表値
2023年1月	2.7	3.1	3.1	0.6	0.7	1.1	2.2	1.6
2023年2月	2.4	2.5	2.7	0.1	0.5	0.8	2.3	2.1
2023年3月	2.5	2.7	2.9	0.5	0.7	1.0	2.8	2.7
2023年4月	2.9	3.0	3.0	0.6	0.7	1.2	3.6	2.8
2023年5月	2.9	3.0	3.1	1.0	1.1	1.4	3.8	2.9
2023年6月	2.6	2.8		0.6	0.7		3.4	

（注）日銀公表値に倣う形で、以下で各値を求めている。刈込平均値：価格品目別上昇率分布の上下10%（ウェイトベース）を除去して前年比を算出、加重中央値：価格品目別上昇率分布における50%近傍の値の前年比（ウェイトベース）、最頻値：各品目別の価格上昇率分布から最尤法でパラメトリックに分布を推定（正規逆ガウス分布）。得られた分布の最頻値。日銀は一部品目・影響の除去を行っているが本試算では行っていない等、一部手法に異なる点がある点に留意。直近値は東京都区部の中旬速報値、過去値は確定値より作成。

（出所）総務省、日本銀行より第一生命経済研究所が作成。

<sup>1</sup> [Economic Trends「東京都区部版・日銀基調的インフレ率の試算」](#)（2023年5月1日）

資料2. 試算した都区部版・基調インフレ率と日銀の全国CPI基調インフレ率（前年比・％）



(注) 資料1に同じ。

(出所) 総務省、日本銀行より第一生命経済研究所が作成。

(参考文献)

川本・中浜・法眼 (2015) 「消費者物価コア指標とその特性 - 景気変動との関係を中心に -」日銀レビュー・シリーズ、15-J-11

白塚 (2015) 「消費者物価コア指標のパフォーマンスについて」日銀レビュー・シリーズ、15-J-12

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。